

(別添資料1)

事業所名		コベルプラス堺東教室（児童発達支援）				支援プログラム（参考様式）		作成日	2025 年	2 月	18 日
法人（事業所）理念		当事業所では、利用児童の「できないことをできるように」という点にだけ焦点を当てるのではなく、子ども自身が自分持っている力を発揮し、将来において社会で活躍する姿をサポートするための支援を目指します。									
支援方針		「できないこと」「苦手なこと」を訓練するのではなく、「できること」「得意なこと」を伸ばすことを重視し、言語やコミュニケーション、社会性、生活支援、認知、運動に関わる多種多様な課題を「楽しい遊び」として取り組めるよう工夫し、提供します。									
営業時間			9 時	30 分	から	18 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	発達の時期により習得すべき技能や生活習慣確立のための課題をバリエーション豊かに行います。訓練ではなく遊びとして楽しめるよう工夫を凝らし、習得に難しさがある時には手を添えて介助したり、指導員が楽しく手本を見せることで意欲を引き出したり、個々のお子さまに合わせたスモールステップで進めます。規則正しい生活リズムを作るために、家庭でできる取り組みをご提案します。									
	運動・感覚	運動能力や感覚を偏りなく育てるために多様な粗大運動・微細運動に取り組みます。粗大運動ではバランスボールやトランポリン、平均台などの運動器具を使用し、様々な身体動作にチャレンジします。微細運動では洗濯バサミや紐通しなど多様な教材を用い、訓練ではなく楽しい遊びとして取り組みます。五感を育てる課題として、楽器や音源による聴覚への刺激、様々な触感を体験する感覚遊びを通した触覚への刺激、視覚的あるいは聴覚的情報処理能力向上のための多様な課題を発達段階に応じて行います。									
	認知・行動	多様な教材を用い、発達段階に合わせた様々な認知課題に取り組みます。環境へ自ら働きかけて学ぶ段階ではボタンを押すと音が鳴る玩具を用いた遊びを中心に、色や形・数などの概念理解の段階ではマッチングや分類などをバリエーション豊かに行います。楽しみながら取り組むことで 意欲的な学習行動へつながるように進めます。									
	言語コミュニケーション	言葉はコミュニケーションの手段であるという前提に立ち、指導員とのやり取りから喜びを共有する体験を重ねます。指差しや視線の共有、物を隠す遊び、擬音語でのやりとりなどを通して、コミュニケーションを深めていきます。文字認知の課題として、マッチングや文字カードでのインプット、なぞりプリントや書き順の歌、サイコロ作文など、楽しめる工夫を凝らした課題に取り組みます。									
	人間関係社会性	子どもの感情を受け止め寄り添うことを第一に、大人との信頼関係や愛着の形成を意識したかわりを通して、将来における円滑な人間関係の構築を目指します。小集団クラスで行うルールのあるゲームでは、要求を伝えたり受け入れたりする体験を通してかわりの成功体験を重ね、相手の気持ちを理解すること・自己の感情を調整することを体験的に学ぶ環境を届けます。成長の過程で起こる困った行動には、ABA（応用行動分析）の観点から環境の改善や対応の見直しを検討し、児童自身が自主的に行動を変えられるよう導いていきます。									
家族支援		保護者の支援の見学や参加を原則とし、相談やフィードバックを通して安心して子育てができるよう支援します。ペアレント・トレーニングを定期的に開催し、保護者がより深く子どもを理解し子育てが楽しくなることを目指します。					移行支援		通園との会議や訪問による情報共有を積極的に行います。環境により児童が見せる姿やできることは変わるため、移行先が安心できる場所となりさるなる成長へつながるよう、丁寧な連携を行います。		
地域支援・地域連携		地域支援・連携として、保育所等へ出向いての説明会やペアレントトレーニング講座、無料子育て相談会などの開催を検討します。地域の子ども支援の一助となるよう、積極的に案内や提案を行い地域での連携に努めます。					職員の質の向上		障害や幼児期の発達、障害児支援の技法や理論について定期的な研修会を開催し、職員の支援スキル向上へつながります。また虐待研修や感染症研修を通して福祉サービス職員としての意識向上を目指します。		
主な行事等											

(別添資料1)

事業所名		コペルプラス堺東教室（放課後等デイサービス）				支援プログラム（参考様式）		作成日	2025 年	2 月	18 日
法人（事業所）理念		当事業所では、利用児童の「できないことをできるように」という点にだけ焦点を当てるのではなく、子ども自身が自分持っている力を発揮し、将来において社会で活躍する姿をサポートするための支援を目指します。									
支援方針		「できないこと」「苦手なこと」を訓練するのではなく、「できること」「得意なこと」を伸ばすことを重視し、言語やコミュニケーション、社会性、生活支援、認知、運動に関わる多種多様な課題を児童自らが意欲的に取り組めるよう工夫し、提供します。									
営業時間			9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし		
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	発達の時期により習得すべき技能や生活習慣確立のための課題をバリエーション豊かに行います。訓練ではなく遊びとして楽しめるよう工夫を凝らし、習得に難しさがある時には手を添えて介助したり、指導員が楽しく手本を見せることで意欲を引き出したり、個々のお子さまに合わせたスモールステップで進めます。規則正しい生活リズムを作るために、家庭でできる取り組みをご提案します。									
	運動・感覚	運動の基本となるボディイメージ形成のために、ヨガのポーズに取り組みます。自分の体の動かし方を捉えること、柔軟性を高めることを目的に、無理なく楽しみながら取り組めるよう促します。また、手先の細かい動作を伴う感覚遊びを行い、楽しみながら左右両方の手や体全体をバランスよく使える器用さを育てていきます。視覚や聴覚を使った情報処理能力向上のための多様なプリント課題も取り入れています。									
	認知・行動	思考を伴う認知力を高めるため、様々な思考問題や図形課題に取り組みます。自ら学ぶ行動へつなげるため、興味関心を引き意欲的に学ぶ姿勢を育てていきます。楽しみながら取り組むことで 学習を肯定的に捉えられるようになることを目指します。									
	言語コミュニケーション	学校生活において先生や友達と、あるいは地域の中で大人を含む他者と円滑に関わりコミュニケーションを築けるよう、テーマに沿ってみんなで会話を楽しむ課題を毎回の取り組みとして行っていきます。正しく話すことをテストするような関わりではなく、他者との会話・やり取りを自分らしく楽しめる環境となるよう、配慮しながら会話の場面を設定します。また、高度な言語活動に必要な言葉や漢字の理解のための課題にも取り組み、学習の段階に応じたプリント課題にも取り組んでいきます。									
	人間関係社会性	子どもの感情を受け止め寄り添うことを第一に、信頼関係を築き将来における円滑な人間関係の構築を目指します。ルールのあるゲームや様々な場面を想定したSST課題に取り組み、場面に応じた適切な行動の成功体験を重ねながら、相手の気持ちを理解すること・自己の感情を調整することを体験的に学ぶ環境を届けます。成長の過程で起こる困った行動には、ABA（応用行動分析）の観点から環境の改善や対応の見直しを検討し、児童自身が自主的に行動を変えられるよう導いていきます。									
家族支援		保護者の支援の見学や参加を原則とし、相談やフィードバックを通して安心して子育てができるよう支援します。ペアレント・トレーニングを定期的に開催し、保護者がより深く子どもを理解し子育てが楽しくなることを目指します。					移行支援		通学先との会議や訪問による情報共有を積極的に行います。環境により児童が見せる姿やできることは変わるため、移行先が安心できる場所となりさらなる成長へつなげるよう、丁寧な連携を行います。		
地域支援・地域連携		地域支援・連携として、ペアレントトレーニング講座、無料子育て相談会などの開催を検討します。地域の子ども支援の一助となるよう、積極的に案内や提案を行い地域での連携に努めます。					職員の質の向上		障害や児童期の発達、障害児支援の技法や理論について定期的な研修会を開催し、職員の支援スキル向上へつなげます。また虐待研修や感染症研修を通して福祉サービス職員としての意識向上を目指します。		
主な行事等											